

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年7月6日(2006.7.6)

【公開番号】特開2004-189887(P2004-189887A)

【公開日】平成16年7月8日(2004.7.8)

【年通号数】公開・登録公報2004-026

【出願番号】特願2002-359578(P2002-359578)

【国際特許分類】

C 08 G 64/20 (2006.01)

C 08 G 64/04 (2006.01)

C 08 J 11/24 (2006.01)

C 08 L 69/00 (2006.01)

【F I】

C 08 G 64/20

C 08 G 64/04

C 08 J 11/24

C 08 L 69:00

【手続補正書】

【提出日】平成17年3月1日(2005.3.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

ポリカーボネートをリサイクルする方法において、

ポリカーボネート廃樹脂、または、ポリカーボネート廃樹脂およびポリカーボネートオリゴマーをエステル交換重合装置に添加し、重縮合反応を進行させる際に、エステル交換反応系中に含まれるポリカーボネート重縮合成分のOH基濃度を調整することを特徴とするポリカーボネート樹脂のリサイクル方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

さらに検討を進めた結果、ポリカーボネート廃樹脂を添加するエステル交換反応系のOH濃度を調整することでこの問題点を解消できることを見出し、本発明を完成するに至った。

すなわち、本発明に係るポリカーボネート樹脂をリサイクルする方法は、

ポリカーボネート廃樹脂、または、ポリカーボネート廃樹脂およびポリカーボネートオリゴマーをエステル交換重合装置に添加し、重縮合反応を進行させる際に、エステル交換反応系中に含まれるポリカーボネート重縮合成分のOH基濃度を調整することを特徴としている。

また、本発明に係るポリカーボネート樹脂をリサイクルする方法は、

重合槽が複数個連結した連続式溶融重縮合装置を用いてポリカーボネート樹脂を製造する該重縮合装置の任意の箇所に、ポリカーボネート廃樹脂を供給し、廃樹脂とのエステル交換反応および/または重縮合反応を進行させる際に、あらかじめポリカーボネートオリ

ゴマーの末端OH基濃度を、最終製品の重合度、目標の重合速度を達成できるように調整して重縮合することを特徴としている。